

シンジェンタグループ広報室

シンジェンタ ジャパン株式会社

〒104-6121

東京都中央区晴海 1-8-1

オフィスタワーX21 階

Tel: 03-6221-1001 Fax: 03-6221-1051

www.syngenta.co.jp

シンジェンタ シード株式会社

〒289-2304

千葉県香取郡多古町高津原向ノ台

401-2

www.syngentaseeds.co.jp



media release

スイス・バーゼル発、2010年2月5日

英文リリース日本語翻訳

シンジェンタ 2009年通年業績

さらなる成長に向けた堅調なキャッシュフロー

- 売上高は、恒常為替レート⁽¹⁾で前年比1%増の110億ドル
- EBITDA⁽²⁾マージンは21.6%を堅持：種子部門のマージンは9.5%
- 1株当たり利益⁽³⁾は、前年比3%減の15.76ドル
- 特別項目を差し引いた後の1株当たり利益は、前年と同レベルの14.62ドル
- フリーキャッシュフローは、5億8,000万ドル
- 2010年のキャッシュリターンは、約7億5,000万ドル：配当の堅持、株式買い戻し

	報告されている財務概要			特別項目を除く			
	2009年 百万ドル	2008年 百万ドル	現地 通貨 %	2009年 百万ドル	2008年 百万ドル	現地 通貨 %	CER %
売上高	10,992	11,624	-5	10,992	11,624	-5	+1
農薬部門	8,491	9,231	-8	8,491	9,231	-8	-2
種子部門	2,564	2,442	+5	2,564	2,442	+5	+13
純利益 ⁽⁴⁾	1,371	1,385	-1	1,478	1,540	-4	-
一株当たり利益	\$14.62	\$14.63	-	\$15.76	\$16.26	-3	-

最高経営責任者マイク・マックは、次のように語っています。

2009年、為替変動のマイナス影響や原材料コストの上昇といった厳しい状況の下、シンジェンタは過去最高の業績を記録した2008年に近い収益を達成しました。このような業績は、弊社製品の生産者の皆様への確固たる価値提供に基づく価格設定方針と収益性の大幅な改善に伴う種子部門の高い伸びを反映しています。それと同時に、厳しい環境下でコストを抑制し、継続的に多額のフリーキャッシュフローを創出するシンジェンタの能力を示しています。また、ラテンアメリカおよび東ヨーロッパにおける積極的なリスク管理により、バランスシートの強さを維持すると同時に、2009年末にかけての、これら地域における景気好転の利益を享受する絶好の立場を確保することができました。一方、アジア太平洋地域の新興市場では、収穫高増大に向けた生産者の継続的な投資を受けて、2009年を通して継続的な成長が見られました。新しい農薬製品の売上高の好調な伸びと、種子部門にお

る収益の急速な増大は、研究開発におけるシンジェンタの持続的な投資の成功を証明しています。また、2009年には、引き続きターゲットを絞った買収を行いました。シンジェンタは世界各地で長期的な事業の拡大を目指しています。このような成長に向けた根本的な牽引力である人口の増大と食習慣の変化は、今も続いています。

(1)恒常為替レートでの成長 (英文完全版の付録Aを参照)

(2)EBITDA (非GAAPベースの財務指標) は、業績指標として一般的に用いられる (英文完全版の付録Bで定義)

(3)完全希薄化ベースでの1株当たり利益 (リストラ費および減損を除く)

(4)シンジェンタAG株主への純利益

2009年通年業績

売上高 110 億ドル

恒常為替レート (CER) での売上高は前年比 1%増でした。報告されている売上高は、2009年上期におけるドル高の影響により、前年比 5%減でした。農薬部門の売上高*は前年比 2%減 (CER)、種子部門の売上高は前年比 13%増 (CER) でした。

*農薬部門の売上は7,100万ドルの部門間売上を含む

EBITDA マージンは 21.6%

EBITDA (利払い・税引き・償却前利益) は、前年比 9%増 (CER) の 24 億ドルでした。価格の引き上げにより、原材料コストの上昇が相殺されました。また、種子部門では、ポートフォリオの改善により収益性が大幅にアップしました。

為替変動

2008 年末のドルに対する新興市場通貨の大幅な切り下げに続き、特に 2009 年上期に、報告されている売上高における為替の影響が色濃く見られました。営業利益に対するこれら通貨の切り下げの影響は、価格引き上げにより一部相殺されました。2009 年下期の、全通貨に対するドル安は、第 4 四半期の売上高にプラス影響をもたらしました。

1株当たり利益は 15.76 ドル

リストラ費および減損を除く 1 株当たり利益は、為替変動のマイナス影響を受けて前年比 3%減でした。リストラ費および減損を含む 1 株当たり利益は前年と同レベルの 14.62 ドルでした。

ビジネスハイライト

農薬部門

農薬部門の売上 (プロフェッショナル・プロダクツを除く) は、過去最高を記録した 2008 年比で 1%減 (CER) でした。このような業績は、作物価格の下落、北半球におけるシーズンが短かったこと、および気象条件などのマイナス影響下における同事業の回復力を示しています。同部門の業績は、弊社製品の生産者への多大な価値提供に基づく価格の引き

上げによって支えられました。弊社の価格設定方針は、市場シェアの拡大をもたらしました。これはまさに、シンジェンタの製品ポートフォリオの強さを物語っています。

2009年、ヨーロッパ、アフリカ、中東地域では、シーズンの始まりが遅れ、その結果、病害虫の発生量は平年より少なくなりました。さらに、東ヨーロッパでは、年末にかけて営業環境の改善が見られたものの、2009年の大部分を通して、厳格なリスク管理による売上高の低迷が見られました。NAFTA地域においても、シーズンの遅れと病害虫の発生量が少なかったことによる影響が見られましたが、穀物および大豆用除草剤の好調な売上により相殺されました。一方、ラテンアメリカ地域では、リスク管理および南部地域での干ばつにより、2009年上期の売上が減少しましたが、経済情勢の回復と商品相場の上昇を受けて、下期には回復しました。また、アジア太平洋地域では、収穫高の増大に向けた生産者の継続的な投資を受けて、特に新興市場において、1年を通して高い需要が継続しました。

選択性除草剤では、トウモロコシ用除草剤の売上低迷が、穀物および大豆用除草剤の売上増によって補われました。非選択性除草剤については、2009年下期におけるグリホサートの大幅な価格引き下げを受けて、売上が低下しました。一方、殺菌剤は、北半球での病害虫の発生量が少なかったにもかかわらず売上を維持しました。2009年下期には、拡大するラテンアメリカ市場におけるマーケットリーダーの座を強化することで、2桁成長を達成しました。殺虫剤は、南北アメリカにおける病害虫の発生が少なかったことにより売上がわずかに低下しました。一方、アジア太平洋地域の売上は堅調な伸びを示しました。種子処理剤は、新規登録ならびに生産者が高価値種子に向かう動きを受けて、特にアジア太平洋地域で好調な売上を達成しました。プロフェッショナル・プロダクツは、ゴルフおよび園芸市場に対する景気の影響により、売上が低下しました。

新製品：新製品（2006年以降に上市された製品）の売上は、前年比32%増の3億800万ドルに達しました。穀物用除草剤 AXIAL[®]は、主要なカナダの小麦市場で引き続き成長し、前年比で50%以上の売上増を達成しました。殺菌剤のレーバス[®]の売上は、主要地域であるヨーロッパで前年比200%の成長を記録すると同時に、他のすべての地域で堅調な伸びを示しました。2008年にインドネシアで上市された殺虫剤 DURIVO[®]が多数のアジア市場で発売され、特に中国において大きな成功を収めました。線虫用種子処理剤 AVICTA[®]については、2010年にトウモロコシ用の上市が予定されており、さらなる成長が期待されます。新製品のピーク時売上高は13億ドルを超えると予想されます。

研究開発パイプライン：現在開発中の農薬の新製品のピーク時の総売上高は20億ドルを超えると予想されます。2010年には、作物ストレスから畑作物を保護するユニークな製品 INVINSA[™]、ならびに幅広いスペクトラムを持つ穀物用殺菌剤 isopyrazam を上市する予定です。また、開発後期のパイプラインには、種子処理用殺菌剤 sedaxane、トウモロコシおよびサトウキビ用除草剤 bicyclopyrone、ならびに殺虫剤 cyantraniliprole が含まれます。

EBITDA は22億4,000万ドル、マージンは26.4%でした（2008年：26.6%）。恒常為替レートでの EBITDA は前年比3%増、マージンは27.8%でした。収益性の根本的改善は、原材料コストの上昇ならびに新興市場の通貨引き下げの影響を相殺する価格引き上げの効果を反映しています。

種子部門

種子部門は、全製品群で成長を達成し、売上高は恒常為替レートで前年比 13%増でした。すべての製品ポートフォリオにおける価格の引き上げは、新技術からの価値獲得ならびに原材料コストの上昇を転嫁する能力を反映しています。

トウモロコシおよび大豆：トウモロコシについて、シンジェンタは世界各地でその存在感を誇り、米国および米国外の市場でむらなく売上を上げています。2009年には、作付面積が減少したラテンアメリカを除くすべての地域で売上が増加しました。米国では、自社開発によるトリプルスタックトウモロコシAGRISURE® 3000 GTがポートフォリオの25%を占めました（2008年：11%）。2010年には同比率が50%を超えると予想されます。自社開発による形質と最高品質の遺伝資源の組み合わせを強化することで、製品ポートフォリオ品質のさらなる向上が実現するでしょう。大豆では、価格方針ならびに高品質の遺伝資源により、2009年を通して堅調な売上を達成しました。市場参入から3年目を迎えたブラジルでは、市場占有率10%を獲得しました。米国におけるトウモロコシおよび大豆の売上は、第4四半期の業界慣習に沿った売買条件の変更による恩恵を受けました。

畑作物：ヒマワリおよびテンサイの主要地域である東ヨーロッパでは、慎重なリスク管理の下、2009年を通して信用状況の改善を図ることができました。モンサント社のヒマワリ事業買収により、ヒマワリ遺伝資源の適用範囲がさらに拡大しました。同買収は、新興市場に対するシンジェンタの大規模な投資の一貫として進められました。一方、米国では、グリホサート耐性を有するテンサイの売上が、堅調な伸びを示しました。

野菜：売上は、高価値作物を中心に引き続き記録的な成長を達成しました。また、Synergene Seed & Technology 社ならびに Pybas Vegetable Seed 社の買収により、米国レタス市場において目覚ましい地位を確立しました。両社の買収によって、自社開発による多様な遺伝資源と優れた品種改良ならびに生産能力の組み合わせが実現します。

花卉：花卉事業の成長は、ゴールドスミス・シード社ならびにヨダー・ブラザーズ社の事業統合を反映しています。園芸市場に対する景気後退の影響が事業全般にわたり見られました。

研究開発パイプライン：現在グローバルで開発中のトウモロコシの新製品のピーク時売上高は、20億ドルを超えると予想されます。商品化が近い開発中の製品には、広範な鱗翅目害虫防除用の Agrisure Viptera™ (MIR 162)、ならびにトウモロコシを原料としたエタノール製造の生産性および持続性を向上する Enogen™が含まれます。これらの形質は、米国農務省の最終承認を待っています。MIR 162 については、ダブルスタックトウモロコシ Bt11xGA21 と共に、2009年11月、ブラジル当局より全ての承認を取得しました。12月には、アルゼンチンにおいてもこのダブルスタックトウモロコシが承認されました。

2009年4月、シンジェンタとダウ・アグロサイエンス社は、両社の種子部門においてそれぞれのトウモロコシ形質を商品化するためのクロスライセンス契約締結を発表しました。本契約により、シンジェンタは2011年以降、米国市場において、緩衝帯面積の軽減および効率の向上に向けて、多様な作用機序を提供できることとなります。

EBITDA は 2 億 4,400 万ドル、マージンは 9.5%でした (2008 年 : 5.5%)。恒常為替レートでの **EBITDA** は前年比 128%増、マージンは 11.2%でした。このような成長の要因として、米国におけるトウモロコシ製品の変化、ならびにマージンの高い野菜事業のさらなる発展があります。種子部門は、2011 年の **EBITDA** マージン 15%達成に向けて順調に前進しています。

正味金融費用

正味金融費用 1 億 2,200 万ドルは、2008 年の 1 億 6,900 万ドルを下回りました。これは、2008 年第 4 四半期の為替差損が 2009 年に再び生じなかったためです。利子負担は 15 倍と、高い状態が続いています。

租税

一部の経常外利益を含むさらなる税の最適化によって、基礎税率は 17%でした (2008 年 : 19%)。税率は中期的に、20%台前半から半ばになると思われます。

キャッシュフロー

フリーキャッシュフローは 5 億 8,000 万ドルと、シンジェンタの事業の強力なキャッシュフロー創出性を示しました。主力農薬製品 2 品目の生産能力拡大に向けた投資を含む固定設備投資は 6 億 5,200 万ドルと、2008 年を上回りました。買収費用は総額 1 億 8,800 万ドルでした。平均取引流動資産は、売上の割合にして 42%と、2008 年の極めて低い 37%より上昇しました。北半球のシーズンが短かった結果、在庫が増えたことがその原因です。

バランスシート

資本に対する負債総額の比率は 25%でした。借入金の概要は、2009 年 6 月のユーロ債 (5 億ユーロ) 発行により強化されました。投資収益率は 24%と、2008 年に続き目標の 20%を超えました。

配当金および株の買い戻し

引き続きフリーキャッシュフローの創出が堅調であることから、2010 年には、2009 年と同じく 1 株当たり 6 スイスフランの配当金の支払いを提案するとともに、株の買い戻しを予定しています。2010 年のキャッシュリターンは、約 7 億 5,000 万ドルと予想されます。

展望

最高経営責任者マイク・マックは、次のように語っています。

新興市場の状況が好転したことで、2010 年の見通しはより前向きになり、第 2 四半期には販売量の増加が期待できます。競争が激化する中、農薬部門においては革新ならびに市場における強固な立場を基に前進するでしょう。一方、種子部門では、売上および収益率のさらなるアップが期待されます。原材料コストの低下ならびに為替のプラス変動によって成長投資の増大および税率の上昇が相殺され、通年の 1 株当たり利益のアップが実現するでしょう。さらに、多額のフリーキャッシュフロー創出も期待されます。2010 年のキャッ

シュリターンは、約 7 億 5,000 万ドルを見込んでおり、2009 年と同水準の配当金支払いを提案するとともに、株の買い戻しを予定しています。

農薬部門

恒常為替レートの定義については、英文完全版の付録Aを参照してください。

製品群	通年		成長		第4四半期		成長	
	2009	2008	現地通貨	CER	2009	2008	現地通貨	CER
	百万ドル	百万ドル	%	%	百万ドル	百万ドル	%	%
選択性除草剤	2,221	2,412	-8	-	334	349	-4	-10
非選択性除草剤	1,141	1,329	-14	-8	180	228	-21	-24
殺菌剤	2,442	2,620	-7	-	632	517	+22	+18
殺虫剤	1,312	1,423	-8	-1	317	334	-5	-7
種子処理剤	821	830	-1	+4	243	208	+17	+14
プロフェッショナル・プロダクツ	458	527	-13	-11	141	140	+1	-1
その他	96	90	+6	+9	35	26	+33	+31
合計	8,491	9,321	-8	-2	1,882	1,802	+4	+1

選択性除草剤：主要ブランド—AXIAL[®]、CALLISTO[®]シリーズ、デュアール[®]／BICEP[®] MAGNUM、FUSILADE[®] MAX、TOPIK[®]

広範囲にわたる価格引き上げにより、販売量の減少が相殺されたことを受けて、前年と同レベルの売上高を達成しました。北米の穀物への使用において AXIAL[®]および TOPIK[®]が堅調に推移しました。米国では、大豆作付面積の増加と雑草の抵抗性上昇を受けて、大豆用除草剤の需要が再び増大しました。一方、新興市場における作付面積の減少およびリスク管理、さらには米国において作付けが遅れた影響により、トウモロコシ用除草剤の売上は減少しました。

非選択性除草剤：主要ブランド—グラモキソン[®]、タッチダウン[®]

2009 年下期にタッチダウン[®]の価格を引き下げたため、売上高は低下しましたが、販売量は回復しました。また、グラモキソン[®]の売上高は、オーストラリア（干ばつによる影響）ならびに新興市場での売上低迷により低下しました。

殺菌剤：主要ブランド—ALTO[®]、アミスター[®]、BRAVO[®]、レーバス[®]、リドミルゴールド[®]、スコア[®]、チルト[®]、UNIX[®]

アジア太平洋地域では、イネ用殺菌剤の需要が好調でした。また、2009 年下期には、ラテンアメリカ地域で大豆用殺菌剤の需要が高まりました。多数の新規市場でレーバス[®]が上市され、前年比でほぼ 2 倍の売上高を達成しました。北半球の売上は、シーズンが短かったこと、および病害虫の発生量が低かったことを受けて全般的に低迷しました。殺菌剤価格の大幅な引き上げにより、販売量の低下が相殺されました。

殺虫剤：主要ブランド—アクタラ®、DURIVO®、フォース®、KARATE®、PROCLAIM®、VERTIMEC®

米国およびラテンアメリカ地域で大豆に対する病害虫の発生が少なかったことを受けて、売上高は 2008 年レベルを若干下回りました。一方、アジア太平洋地域の売上は 2009 年を通して堅調に推移しました。特に生産者に作物の強化という新たなメリットを提供する DURIVO®の発売が成功を収めました。

種子処理剤：主要ブランド—AVICTA®、クルーザー®、DIVIDEND®、MAXIM®

種子処理剤の売上高は概して増加しました。主な推進要因はクルーザー®です。クルーザー®の価格引き上げは小幅ながら、販売量が大きく伸びました。特に、フランスでの登録取得、ならびにカナダにおける大豆への新規適用が、クルーザー®の伸びを牽引しました。

プロフェッショナル・プロダクツ：主要ブランド—ファファード®、ヘリテージ®、ICON®

プロフェッショナル・プロダクツは景気低迷による影響を受けました。ゴルフおよび園芸における需要低下、ならびに顧客のより慎重な購買姿勢がその要因です。

	通年		成長		第 4 四半期		成長	
	2009	2008	現地通貨	CER	2009	2008	現地通貨	CER
地域別売上	百万ドル	百万ドル	%	%	百万ドル	百万ドル	%	%
ヨーロッパ、 アフリカ、中東	2,667	3,214	-17	-5	455	401	+13	+2
NAFTA	2,567	2,693	-5	-	281	338	-17	-17
ラテンアメリカ	1,907	2,037	-6	-6	842	824	+2	+2
アジア太平洋	1,350	1,287	+5	+11	304	239	+27	+18
合計	8,491	9,321	-8	-2	1,882	1,802	+4	+1

ヨーロッパ、アフリカ、中東地域：シーズンが短く、病害虫の発生が少なかったこと、および東ヨーロッパでのリスク管理により、売上高は前年を下回りました。一方、平均を上回る価格引き上げにより、販売量の低下が一部相殺されました。東ヨーロッパにおける営業状況は、2009 年末に向けて好転しました。

NAFTA 地域：グリホサート市場における圧力をよそに価格が全般的に高めに推移したことで、病害虫の発生低下に伴う販売量の小幅な低下が相殺されました。カナダでは、穀物用除草剤および種子処理剤の市場におけるポジションのさらなる強化により、売上数が堅調に伸びました。

ラテンアメリカ地域：2009 年下期における販売量の力強い伸びにより、南部地域での干ばつおよび厳しい与信管理による上期の販売量の低下が概ね相殺されました。下期の成長は、大豆作付面積の増加に伴う広範な技術の使用を反映しています。価格の引き下げは主に、グリホサートならびに競争環境における通貨関連の調整に関係しています。

アジア太平洋地域：農業経済は経済危機からの回復力を証明しました。十分な資金の流動性により、生産者は引き続き収穫高の増大に投資することができました。シンジェンタは、革新ならびに各国における地域のニーズに適応した製品ポートフォリオによる広範な成長を達成し、市場ポジションを一層強化しました。

種子部門

恒常為替レートの定義については、英文完全版の付録Aを参照してください。

製品群	通年		成長		第4四半期		成長	
	2009	2008	現地通貨	CER	2009	2008	現地通貨	CER
	百万ドル	百万ドル	%	%	百万ドル	百万ドル	%	%
トウモロコシ&大豆	1,210	1,040	+16	+21	241	82	+195	+193
畑作物	429	462	-7	+11	55	42	+29	+28
野菜	594	603	-2	+5	133	114	+16	+13
花卉	331	337	-2	+5	53	48	+13	+10
合計	2,564	2,442	+5	+13	482	286	+69	+67

トウモロコシおよび大豆：主要ブランド—AGRISURE®、GARST®、GOLDEN HARVEST®、NK®

全地域において成長を達成しました。とりわけ NAFTA 地域およびアジア太平洋地域では大幅な伸びが見られました。第4四半期には、米国で業界の慣習に沿って売買条件が変更されたことを受けて、成長が増大しました。さらに米国では、自社開発によるトリプルスタックトウモロコシ AGRISURE® 3000 GT の売上が大幅に伸びました。また、優れた遺伝資源により高価格設定となった大豆の売上也堅調でした。大豆は、V-Max 製品の人気を受けて、ブラジルにおいても好調な伸びを達成しました。一方、アジア太平洋地域では、主力の熱帯性トウモロコシの遺伝資源により、成長市場において他社をしのぎました。

畑作物：主要ブランド—NK®ナタネ、HILLESÖG®テンサイ

全地域で売上増を達成しました。売上の大部分をヨーロッパおよび NAFTA 地域が占めました。特に西ヨーロッパで堅調な成長が見られました。一方、東ヨーロッパでは、価格引き上げがリスク管理対策による販売量へのマイナス影響を補って余りあるものでした。米国では、グリホサート耐性テンサイの売上が引き続き増大しました。

野菜：主要ブランド—DULCINEA®、ROGERS®、S&G®、Zeraim Gedera

戦略的作物における高価値製品の継続的拡大を受けて、成長が達成されました。特にラテンアメリカ地域ならびにアジアの新興市場において売上の堅調な伸びが見られました。

花卉：主要ブランド—Fischer、Goldsmith、S&G®、Yoder

花卉の成長はゴールドスミス・シード社ならびにヨダー・ブラザーズ社の事業統合を反映しています。売上は経済環境の影響を受けました。

	通年		成長		第4四半期		成長	
	2009	2008	現地通貨	CER	2009	2008	現地通貨	CER
種子部門	百万ドル	百万ドル	%	%	百万ドル	百万ドル	%	%
地域別売上								
ヨーロッパ、 アフリカ、中東	933	1,077	-13	+3	115	93	+24	+21
NAFTA	1,187	979	+21	+22	213	107	+100	+100
ラテンアメリカ	243	216	+12	+12	87	43	+100	+100
アジア太平洋	201	170	+18	+28	87	43	+56	+49
合計	2,564	2,442	+5	+13	482	286	+69	+67

今後の業績発表および会議

2010年第1四半期業績発表	2010年4月15日
年次株主総会	2010年4月20日
2010年上期の業績発表	2010年7月22日
2010年第3四半期業績発表	2010年10月14日

シンジェンタは、“植物のちからを暮らしのなかに”を企業目的として世界90カ国以上で事業を展開し、2万5,000人超の社員を擁する世界のリーディングカンパニーの一つです。ワールドクラスの科学、グローバルな事業活動とお客様へコミットメントを通じて、作物の生産性向上、環境の保護および健康と生活の質の向上をサポートしています。さらに詳しい情報は、インターネットwww.syngenta.com（英語）または、www.syngenta.co.jp（日本語）をご覧ください。

将来の見通しに関する記述についての注意事項

本リリースには、将来の見通しに関する記述が含まれています。将来の見通しに関する記述は、「見込まれています」、「でしょう」、「の予定です」、「潜在的な」、「計画」、「展望」、「推定」、「目的」、「目標」またはその他これに類似した表現により特定されます。そのような将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要素により影響を受けるため、実際の結果と異なる可能性があります。そのようなまたはその他のリスクと不確定性については、シンジェンタが米国証券取引審議会に提出した入手可能な書類をご参照ください。シンジェンタは、実績、前提条件の変化などの要因を反映するための将来の見通しに関するいかなる記述もそれを更新する義務を一切負わないものとします。本リリースの全体または一部は、シンジェンタAGの普通株またはシンジェンタADSの売却もしくは発行を申し出るか、勧誘するものではなく、それらの購入または申込の申し出を勧誘するものでもありません。また、それらの目的のために締結される契約に関してその根拠または拠り所となるものではありません。